

た か し



杉並区立高井戸第四小学校

学びを深める夏にするために

校 長 本橋 忠旗

今年は、大きなスポーツイベントが続く年です。2月にはイタリアで行われたミラノ・コルティナ冬季オリンピック、3月にはワールドベースボールクラシック、6月にはFIFAワールドカップ、10月には第20回アジア競技大会が行われます。特に、現在行われているワールドカップは世界中で大きな盛り上がりを見せています。

先日、書店で興味深いタイトルの書籍を見付けました。その本は、物事の価値に注目して書かれた内容のもので、その価値を「付加価値」「既存価値」「不要価値」の側面から分析して解説していくというものでした。物事に対して付加価値をつけるのが上手な人は、行動視点（実行力がある）、継続視点（持続性がある）、俯瞰視点（大局的なものの見方ができる）、選択視点（自己決定できる）、自分矢印視点（当事者意識がある）という傾向があると紹介していました。また、付加価値を生み出すには、物事に対して「興味をもつこと」が重要で、その要素として「①新奇性や好奇心 ②個人的な関連ごと ③社会的な関心ごと ④学びによる深度 ⑤個人の周辺にある関連ごと」を挙げていました。そして、興味は長期記憶との結びつきが強く、人が興味をもつことには、その人の過去の記憶が影響しているとも解説していました。

このようなことを知れば、「アメリカ大会出場目前のドーハの悲劇（1993）」「フランス大会でのワールドカップ初出場（1998）」「日韓共同開催とロシアからの初勝利

（2002）」「南アフリカ大会初の決勝トーナメント進出（2010）」「カタール大会での三苦の1ミ（2022）」という長い記憶の中で「今大会ではいよいよ優勝をねらうと言い出すところまできたのか」と、普段サッカーを観る機会が少ない私でも注目してしまいます。

あと3週間もすると夏休みを迎えます。この期間は、子供自身が時間を自由に使える期間です。その時間にどう付加価値をつけていくか。私たち大人にとっては思案のしどころかもしれません。

これまでの教科学習から感じたり、なぜだろうと思ったりしたこと、地域社会や社会全体で話題になったりしていることなど、さらに追究したいという付加価値を見付け、自分なりに探究できる時間をつくってほしいと思います。自力で問題を解決した事柄や過程には、自信が生まれ次の学びの意欲に、もしそれが難しくても、その瞬間や時間を十分に楽しむ、そのような経験は未来の学びへ興味を生み出します。

ちなみに先の書籍では、付加価値のつくり方として、問いの立て方を紹介していました。著者によると物事に対して「どうして〇〇になるんだろう」から「どうしたら〇〇になるだろう」という発想の仕方が重要ということです。そのような発想の転換ができれば、探究したい物事に対して自分なりの視点と意思で追究ができるかもしれません。

充実した夏休みになることを祈りつつ、私はこの夏、現存天守12城の存続理由について調べてみたいと思っています。